

**製品名: Met (リン酸化 Tyr1003) ウサギポリクローナル抗体****カタログ番号: APRab05016**

研究使用のみ

**概要**

説明	ウサギポリクローナル抗体
宿主	うさぎ
応用	WB,IHC,ICC/IF,ELISA
反応性	ヒト、マウス、ラット
標識	非共役
修飾	リン酸化
アイソタイプ	IgG
クローン性	ポリクローナル
形態	液体
濃度	1mg/ml
保存	アリコートし、-20°Cで保存してください（12ヶ月有効）。凍結/融解サイクルを避けてください。
輸送	氷袋
バッファー	50% グリセロール、0.5% 保護タンパク質、0.02% 新タイプ防腐剤 N を含む PBS 液。
精製	アフィニティー精製

**応用**

希釈倍率	WB 1:500-1:2000,IHC 1:100-1:300,ICC/IF 1:200-1:1000,ELISA 1:20000-1:40000
分子量	155kDa

**抗原情報**

遺伝子名	MET
別名	MET; Hepatocyte growth factor receptor; HGF receptor; HGF/SF receptor; Proto-oncogene c-Met; Scatter factor receptor; SF receptor; Tyrosine-protein kinase Met
遺伝子 ID	4233.0
SwissProt ID	P08581
免疫原	抗血清は、ヒト c-Met の Tyr1003 のリン酸化部位周辺の合成ペプチドに対して作製された。アミノ酸範囲: 976-1025

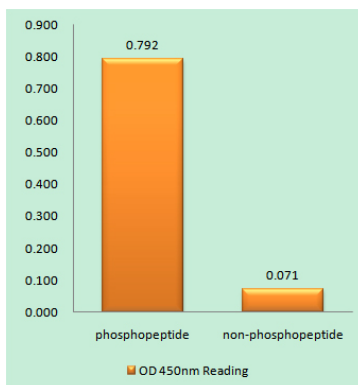
**背景**

この遺伝子は、受容体チロシンキナーゼファミリーに属するタンパク質と、プロトオンコジーン MET の産物をコードしています。コードされているプレプロタンパク質はタンパク質分解によって  $\alpha$  サブユニットと  $\beta$  サブユニットに分解され、ジスルフィド結合によって成熟受容体を形成します。 $\beta$  サブユニットはさらに処理され、肺線維症を軽減することが示されている M10 ペプチドを形成します。そのリガンドである肝細胞増殖因子との結合は、受容体の二量体化と活性化を誘導し、細胞の生存、胚発生、細胞の移動と浸潤に役割を果たします。この遺伝子の変異は、乳頭状腎細胞癌、肝細胞癌、および様々な頭頸部癌と関連しています。この遺伝子の増幅と過剰発現は、複数のヒト癌とも関連しています。[RefSeq 提供、2016 年 5 月],触媒活性:  $\text{ATP} + \text{a [タンパク質]-L-チロシン} = \text{ADP} + \text{a [タンパク質]-L-チロシンリン酸}$ 。疾患: TPR 遺伝子との再編成後の MET の活性化により、発がん性タンパク質が産生される。疾患: MET の欠陥は、肝細胞癌 (HCC) [MIM:114550]の原因である。疾患: MET の欠陥は、遺伝性乳頭状腎癌 (HPRC) [MIM:605074]の原因である。乳頭状腎細胞癌 2 (RCCP2) としても知られる。HPRC は、両側に多発する乳頭状腎腫瘍を発症しやすい遺伝性腎癌の一種である。遺伝形式は常染色体優性遺伝で、浸透度は低い。疾患: MET 遺伝子の欠陥は胃がんと関連している可能性がある。疾患: MET 遺伝子の変異は、自閉症 9 型 (AUTS9) [MIM:611015]の感受性と関連している可能性がある。自閉症は、言語、知覚、社会化の障害を特徴とする神経発達障害である。この障害は、典型的には、言語コミュニケーションの制限または欠如、相互的な社会的相互作用または応答性の欠如、そして限定的、定型的、儀式化された興味および行動パターンという 3 つの徴候によって定義される。ドメイン: キナーゼドメインは SPSB1 の結合に関与している。機能: 肝細胞増殖因子および散乱因子の受容体。チロシンタンパク質キナーゼ活性を有する。細胞の増殖、散乱、形態形成および生存に機能する。オンライン情報:C-MET エントリ,類似性:タンパク質キナーゼスーパーファミリーに属します。Tyr タンパク質キナーゼファミリー。類似性:1 つのタンパク質キナーゼドメインを含みます。類似性:1 つの Sema ドメインを含みます。類似性:3 つの IPT/TIG ドメインを含みます。サブユニット:ジスルフィド結合したアルファ鎖 (50 kDa) とベータ鎖 (145 kDa) から形成されるヘテロ二量体。PLXNB1 および GRB2 に結合します。SPSB1、SPSB2、および SPSB4 と相互作用します (類似性による)。INPP5D/SHIP1 と相互作用します。Tyr-1356 がリン酸化されると、INPPL1/SHIP2 と相互作用します。RANBP9 および RANBP10 だけでなく、SPSB1、SPSB2、SPSB3、および SPSB4 とも相互作用します。SPSB1 への結合は HGF の存在下および非存在下を問わず起こりますが、HGF 処理はこの相互作用にプラスの効果をもたらします。MUC20 と相互作用し、GRB2 との相互作用を阻害し、肝細胞増殖因子誘導性の細胞増殖を抑制します。

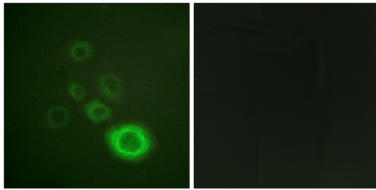
## 研究分野

サイトカイン-サイトカイン受容体相互作用、エンドサイトーシス、軸索ガイダンス、焦点接着、接着結合、ヘリコバクター ピロリ感染における上皮細胞シグナル伝達、がんの経路、大腸がん、腎細胞がん、黒色腫。

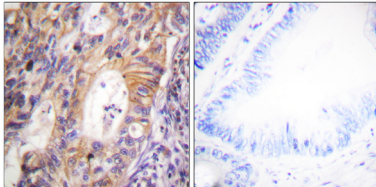
## 画像データ



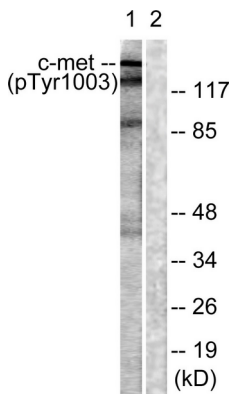
c-Met (リン酸化 Tyr1003) 抗体を用いたリン酸化ペプチド (リン酸化左) および非リン酸化ペプチド (リン酸化右) 免疫原の酵素結合免疫吸着測定法 (リン酸化 ELISA)



c-Met (リン酸化 Tyr1003) 抗体を用いた HepG2 細胞の免疫蛍光染色。右の写真はリン酸化ペプチドでブロッキングした状態。



c-Met (リン酸化 Tyr1003) 抗体を用いたパラフィン包埋ヒト大腸癌の免疫組織化学染色。右の写真はリン酸化ペプチドでブロッキングした状態。



c-Met (リン酸化 Tyr1003) 抗体を用いた HepG2 細胞ライセートのウェスタンブロット解析。右レーンはリン酸化ペプチドでブロッキングされている。